

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の適期防除について

赤かび病の防除適期は、大麦は蒴殻抽出始め、小麦が開花期～開花最盛期です。本年産麦の出穂期は、今後気温が平年並で経過すれば、平年よりやや早くなる見込みです。しかし、出穂期は播種時期や麦種によって大きく異なるため、下記事項を参考に、各圃場の生育状況を確認したうえで、適期防除を実施してください。

記

1. 麦類の生育状況について

平成26年11月下旬～12月下旬播きでは、節間伸長始期は大麦、小麦で平年並～やや早い。今後、気温が平年並で経過すれば、出穂期は平年よりやや早くなる見込みである（農業試験研究センター・県米麦改良協会：平成27年3月20日付け麦づくり情報第4号）。

表 出穂期の平年及び前年値（県農業試験研究センター）

品種名	播種時期 注1)	出穂期 注2)	
		平年値 注3)	前年値
ニシノホシ	12月10日	4月13日	4月12日
	12月20日	4月16日	4月14日
サチホゴールド	12月10日	4月11日	4月11日
	12月20日	4月13日	4月12日
シロガネコムギ	11月20日	4月8日	4月9日
	12月10日	4月15日	4月16日

注1) 播種時期：毎年、11月20日、12月10日、20日前後に播種

注2) 出穂期：全莖数の40～50%が出穂した日

注3) ニシノホシは19年産からのため、19～26年産の平均。

サチホゴールドは、12月10日播種は23年産からのため、23～26年産の平均。12月20日播種は24年産からのため、24～26年産の平均。

シロガネコムギ、ニシノホシの平年値は過去7ヶ年の内最高と最低を除いた5ヶ年の平均。

2. 防除対策について

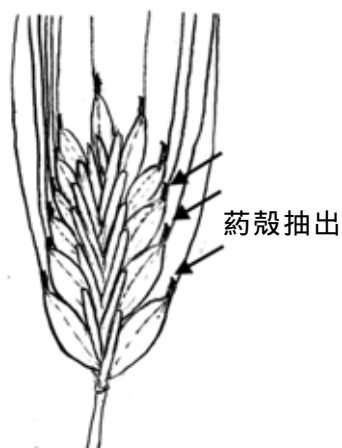
- (1) 大麦における赤かび病の防除適期は、葯殻抽出始め(出穂期の約2週間後)である(下図)。更に、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる。
- (2) 小麦における赤かび病の防除適期は、開花期～開花最盛期(出穂期の約10～14日後)である。更に、その10～20日後に2回目の散布を行うと効果が高まる。
- (3) 出穂期は今後の気象や播種時期、麦種によって異なるため、必ず各圃場毎に出穂状況を確認したうえで、適期防除に努める。
- (4) 赤かび病防除薬剤の効果は、予防が主体である。このため、散布時期が遅れないように適期に薬剤を散布する。
- (5) 防除に当たっては、農薬使用基準(収穫前日数等)を遵守するとともに、周辺への農薬飛散防止に努める。

赤かび病の防除適期

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の40～50%が出穂した日					
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日
小麦	少～並発生	開花期～開花最盛期					
	並～多発生	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→					
大麦	少～並発生	葯殻抽出始め					
	並～多発生	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→					

- 注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。
 注2) 小麦の開花期とは50%の穂が開花、開花最盛期とは80%の穂が開花した日。
 注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

横からみた図



上からみた図



図 大麦の葯殻抽出